



渡部 末吉 さん

十二月定例議会一般質問を傍聴した。

質問要旨のなかに自動体外式除細動器「AED」を伯耆町内福祉センター他、集会場所に設置の必要性を質問された議員さんと町長の質疑応答の中で町内施設関係者と協議し順次設置を考えていると、前向きな回答でありました。

合併後伯耆町第一回ボランティアフェスティバルに参加。救急蘇生法「AED」講習実技を受け、高齢者社会に起きてはならない「生命」の危険に遭遇した場合五分以内に心臓と呼吸を維持することが出来ることを学び、改めて「命」の大切さを実感した。

最後に一町民として早急に設置されることを期待します。

【お詫びと訂正】
第三号掲載の傍聴席で森安 嵩さんの名前が「崇」となっておりました。訂正してお詫び致します。

伯耆町の催し物&イベント

人権・同和問題
実践交流会開催



十二月十二日、鬼の館ホールで「自分自身の生き方を見つめなおし、人間としてより豊かな生き方をしてよう」を研究主題に、実践発表と講演が行われました。

伯耆町として初めて開催された交流会には、町内外から約三百人の参加者がありました。

中学生をはじめとし各界の代表五名の方から明るいまちづくりのための実践例や体験談を聞き、人権への学習と意欲を高めました。また、落語家桂

枝女太(かつら しめた)さんの古典落語「景清(かげきよ)」の公演がありました。

この落語は、ある日突然光を失った若者の心の葛藤と障害者を支える家族、友人の愛情。また、障害者と支援する側の微妙な気持ちをも描いた作品でした。

枝女太さんの落語を聞き、言葉の持つ本当の意味を理解し、相手の立場にたった表現をすればわかだかまりなく心の中に「すーっと」入ってくるものだと感じました。

だからこそ、言葉には重みがあり、大切なものなのだと思えて考えさせられました。

これを機に、家庭や地域、職場で人権・同和問題について関心を持ち、伯耆町が差別のない、明るいまちになるように、ともにがんばりましょう。

この交流会に一般会計等から三十五万円が支出されています。



編集後記

新町二年目を迎えるに当たり、伯耆町の将来展望がかかっている総合計画案が十二月にやっと示され、具体的な中身に至っては未だ手つかずで、いらいらしている様子が各質問者から伺えました。

我が町も、あれもこれもと「貪らず、欲せず」ダイエツトをしてスリムになることも必要ではないか。

今後、益々町民の税負担が暮らしの枷になることは必然的であります。伯耆町においても、奇抜なアイデアで抜本的な変革と改革をもって、他町村をリードし「伯耆町ここに在り」と胸を張りたい。議会においても、三月定例議会が正念場となると思います。

【編集】
議会広報特別委員会

- 委員長 野坂 明典
- 副委員長 大森 英一
- 委員 小村 公洋
- 委員 影山 辰雄
- 委員 細田 栄
- 委員 遠藤 俊寛

「議会だより」に対するご意見をお待ちしております。